

はじめに

本書は、二〇二一年五月二十九日に中部大学「創造的リベラルアーツセンター」の設立を記念して開催されたオンライン・シンポジウム、「リベラルアーツと外国語」をもとにして編纂されたものです。

このシンポジウムは、二〇一九年一二月に中部大学春日井キャンパスで開催された「21世紀のリベラルアーツ」(二〇二〇年一二月に同名の書籍として水声社から刊行)の後を受けた第二弾として位置づけられます。前回はまだ「創造的リベラルアーツセンター」が発足前でしたので、まずはその準備段階として「リベラルアーツ」という概念そのものの再定義を試みるということが主眼でしたが、今回は少し焦点を絞って、「外国語」という

視点からリベラルアーツの問題を掘り下げることをおもな目的としました。

第Ⅰ部は当日のシンポジウムの記録、第Ⅱ部はこのシンポジウムに関連する九名の論者のエッセイという構成になっています。

シンポジウムのパネリストは鳥飼玖美子さん（立教大学名誉教授）、小倉紀蔵さん（京都大学大学院教授）、ロバートキャンベルさん（早稲田大学特命教授）の三名。いずれも第一線で活躍中の著名な方ばかりで、当日のオンライン視聴者も、大学関係者だけでなく、中学高校の関係者、マスコミ・出版関係者、学生、そして多数の一般視聴者を含めて多岐にわたり、このテーマに対する関心の高さがうかがえました。

パネリストの方々の発表は、いずれも長年の研究・教育経験とそれぞれの豊かな専門的知見に裏付けられたユニークな内容で、パネリスト間では非常に示唆に富むやりとりが交わされましたし、参加者からも数多くの質問とコメントが寄せられ、主催者としては終えるのがもったいないほど充実したシンポジウムになったというのが偽らざる実感です。当日視聴できなかった方々にも、本書を通して白熱した議論の雰囲気を感じていただければ幸いです。

また第二部では、「リベラルアーツと外国語」というテーマについて論じていただくにふさわしいと思われる方々に寄稿を依頼しました。このシンポジウムを視聴して下さった

方が多数ですが、それ以外の方の参加も得て、きわめて多彩かつ豪華な顔ぶれになったと思います。執筆者の方々にはそれぞれの立場からあくまでも自由に語っていただくことを旨としたため、アプローチの仕方も語り口もさまざまですが、一見するととりとめなく思えるかもしれないその幅広さが、まさにシンポジウムのテーマである「リベラルアーツ」の本質を図らずも表しているのではないかと考えています。

では、前置きはこれくらいにして、早速シンポジウム会場のご案内しましょう。

石井洋二郎